# 同窓会だより

15号
令和４年９月号

発行責任者:白井　鉄男
発行:八幡中学校同窓会

**あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。**

**変わる社会　戦争と平和**　今年、２月のロシアのウクライナ侵攻で、一気に戦争が身近なものに感じ、更には中台の関係悪化が懸念される中、平和の尊さを改めて感じるものである。平成天皇が退位の際のお言葉に、先の対戦を考慮に「平成年間に戦争が無かったことが幸いであった」との旨の発言が印象に残った。何故、人間は戦争が愚かな行為であることが分かっていても繰り返すのであろうか。

そもそも戦争或いは戦は、日本では弥生の後期まで数万年を経ても無かった。何故だろうか。それまでの狩猟採取時代から農耕時代に入ってからの事である。それはその日暮らしから、多少でも「備蓄」が始まり、小競り合いから備蓄の争奪が可能になったからだろう。戦争とは、「殺戮（さつりく）・略奪・強姦」の自由である。戦国時代、キリストが入る頃から、日本には無かった「人身売買」が加わった。

戦国時代、通貨を製造していなかった（明より銅貨を輸入）が、輸入出来なくなり通貨の量の調整が出来ず超デフレ社会となり、いわばお金の争奪戦で１００年も戦国時代が続いたと言われる。

その後、明治政府が西欧視察団を出し、ドイツ帝国でビスマルクとの話の中で、当時西欧に比べ小国であった日本が、「大国とは、利益になれば国際法を守り、不利である時は武力を使う」という話を聞き、富国強兵を推進するきっかけになった。日清戦争に勝ち、国家予算の３倍の賠償金をせしめ、戦争は儲かると勘違い。日露戦争では勝利したものの賠償金は取れず、政府の外交は非難され、逆に戦費が国家予算の８倍掛かり、財政は疲弊した。更には第一次・第二次と戦争は続き、最後は敗戦の道へ。

元来、「平和が続くと格差が生じ,戦争はその格差の是正をする」と言われる。つまり、戦争では金持ちも貧乏人も等しく打撃を受けるからである。戦後日本でも、財閥解体や農地解放により、国民は等しく貧乏となる。戦後、朝鮮戦争への米軍依頼の物資供給で、経済復興の機会を得るという皮肉もある。しかしながら、為政者の考えとは別に、どこの国の国民も平和を望んでいることに間違いない。

**「東小だより」**　７月２２日（金）、「浜松市小学校３０分間回泳」（各校の５年生の希望者対象・市内の９０校から約６，０００名参加・３日間の分割開催）に、本校児童も参加してきました。コロナ渦の中、昨年・一昨年と各学校のプールでの自校開催でしたが、３年ぶりに浜松総合水泳場での開催となりました。子供たちは、学校より広くて水深のあるプールや他校の児童と一緒に泳ぐことに、適度な緊張感を持ちながら一生懸命泳ぎぬくことができ、貴重な体験となりました。

さて、今年度は各学年２学級ずつの計１２学級、全校児童３６４名（８/３１現在)、３０名の教職員で教育活動をスタートしています。目指す子供の姿を「やってみたいと考え、動く子」とし、自分の置かれた状況を的確にとたえて、自ら「やってみたい」ことを目標に定めたり、或いは目標達成のために、自ら何かを「やってみたいと考え、行動したりする力を身に付けた子供の育成を目指しています。

言い換えますと、世の中の変化が大きく予測困難な時代に、どのような状況下においても、自らの進む道を切り開いていくことの出来る人を育てることでしょうか。

東小の子「ポプラっ子」たちが、将来に夢と希望を持ち、たくましく生きていけるよう、職員一同力を合わせていきます。

今後も、保護者ならびに地域の皆様の温かなご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

校長　大石　泰三

**「同窓会だより」掲載記事募集**

八幡中学校同窓会事務局　　代表　白井　鉄男
連絡先：〒４３０－０９２８
浜松市中区板屋町６１２－４０２
ＴＥＬ／ＦＡＸ：（０５３）４８９－６３９１
ironman29@hotmail.co.jp

**八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行します。**